

# 学生リーグ戦の思い出



青山学院大学空手道部主将(平成18年卒)

## 平田 了三

10歳から日本空手協会でも空手道を学び始めてから、早いもので18年が過ぎました。小・中・高・大学と思えば人生の2/3を空手道とともに過ごしてきたことになります。そして、その18年の空手道生活の中で最も濃密な時間を過ごしたのが大学時代の空手道部での日々でした。

高校を卒業し一年間の浪人生活を過ごした私にとって、故郷を離れ東京の大学に進学し一人暮らしを始めるということは、浪人生活から解放されたという気持ちからある種の優越感にも似たような特殊な気分を私の中に秘めていました。つまり、大学入学当初の私は「浮ついた学生生活」を謳歌するという気分で溢れていたのです。勿論その時の私の頭には「空手」の「か」の字もありませんでした。

入学後、一年間の浮つきだらけた学生生活を送った私は、自分の大学生活が全く目標や醍醐味のないものになっていることに気がついたのです。そう考えて一週間後、私は気がつけば青山学院大学空手部の道場で週6日の空手道の稽古に励んでいたのです。だらけた生活から一転して、上下関係や規律・礼儀に厳しい大学空手道部の世界に入った私でしたが、なぜかいつも充実した清々しい気分浸っていたことを今でも忘れることができせん。自分の居場所というものを見つけたような気分でもあった気がします。

そんな大学空手道部の生活の中で「学生リーグ戦」の記憶は非常に思い出深く残っています。高校時代、名もない高校で空手道をやっていた私にとって、関東の大学に進学する全国でも有名な空手の選手たちを目の当たりにできることは非常に光栄なことでした。加えてそれらの選手たちと拳を交えることなどは夢にも思っていないことだったので、私にとってリーグ戦は自分自身の力を試す大変良い機会でもあったのです。

思えばこの学生リーグ戦での多くの試合を通して、私は空手道の自分自身の実力の向上を始め、チームとして戦うことの大切さや、勝負の駆け引きなどを大いに学ぶことができましたと思います。この学生リーグ戦での経験は、現在でも空手道の稽古をする際や学生に指導をする際にも常に活かされています。

だらけた生活から一変し、空手道漬けの学生生活を送ったことは私にとって人生の一つの分岐点だったと思います。特に大学時代に空手道を通して多くの方々と出会ったことも非常に貴重な経験となりました。「一期一会」と言いますが、まさにそのことを体現できたのが私の大学空手道部の日々だったと思います。

今後、さらなる空手道の稽古に勤しみ、大学OB連合会会員の一人として本大会の発展に携わっていきたいと思っています。

本大会の益々のご発展を心からお祈りいたします。